

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701079		
法人名	特定非営利活動法人双松福祉会		
事業所名	グループホームわらび苑		
所在地	青森県三戸郡階上町大字角柄折字餅栗久保4番地1		
自己評価作成日	平成25年6月25日	評価結果市町村受理日	平成25年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>デイサービスが併設されており、広いスペースを活用しての訪問等が行われるため、利用者の楽しみが多いといえる。 また、リフト付きバスが数台あるため、外出や受診が比較的容易に出来る。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年7月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>桜や松の林に囲まれた、豊かな自然の中にあるホームであり、「笑顔を決やらず、心かよう会話、四季を楽しむ」に加え「緑豊かな地域に囲まれ、地域の方々と共に歩んでゆく」の理念を柱に、全職員で日々のケアに取り組んでいる。 また、法人の敷地が災害避難場所の指定を受けている他、地域住民による「双松会ボランティア」や「自主消防隊」が結成されており、行事や防災等の協力が得られ、相互に良好な関係を構築している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識した理念を作成し、職員の意識付けをしている。	設立当初からの基本理念である「三つの心」に地域密着型サービスの役割を盛り込み、ホーム内に掲示している。職員は、日々のケア場面で壁にぶつかったり、迷いを感じた時に理念に立ち戻り、自分なりに理念への思いを深めながら、利用者との関わりにその思いを活かせるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア組織を作り、周辺環境整備や利用者との昼食会等を通じて交流を図っている。	地域住民からなる「双松会ボランティア」による年3回の草取り奉仕活動の他、夏祭りの準備等の協力を得ている。また、地域の行事やつつじ祭りへの参加の他、小学校の運動会への招待や中学校の職場体験の受け入れも行い、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア組織の活動を通して、認知症の方々の生活を側面から支援していただいている。また、定期的に法人のたよりを地域に発送している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの報告や災害対策等を議題とし、その都度適切な助言等をいただきながら、それを活かしている。	家族代表の他、町議会議員や地域の有識者等にも働きかけ、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。メンバーにはホームの実情を理解してもらい、それぞれの立場からの助言を得ている。また、自己及び外部評価結果の公表の他、目標達成計画の説明を行い、今後のより良いサービス提供のために、意見を出していただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、議題にかかわらず、その都度アドバイスや助言をいただいている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が毎回参加している他、自己及び外部評価結果や広報誌等を配布し、ホームの現状を伝えている。また、法人の敷地が災害避難場所の指定を受けており、行政との連携を更に深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言と称し、それを各所に掲示して職員に啓発している。管理者は、身体拘束を行わないよう職員に周知しながら、その都度職員と話し合い、より良い方法を探している。	身体拘束は行わないことを基本姿勢とし、「身体拘束排除宣言」を掲げ、理解を深めている。無断外出の傾向が強い利用者が入居している棟の中扉は、家族に説明した上で施錠している。また、万が一の際には「自主消防隊」の協力が得られる体制を整えている他、周辺の散歩やドライブ等で気分転換が出来るように支援している。	やむを得ず、施錠等の身体拘束を行うことを記録に残す様式は整備されているが、併せて、家族から同意を得ることも記録に残してはどうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム長は研修に参加し、虐待が行われないよう注意を払っている。今後、職員にも積極的に研修に参加させたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	ホーム長は研修に参加して学び、必要性を把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には十分に説明やアセスメントを行い、双方が納得した上で決めている。退居に関しては、利用者や家族の心情に配慮しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の健康状態や生活状況を定期的に報告している。	ホーム内外の苦情受付窓口を明示している他、出された苦情や意見には迅速に対応し、早急に改善出来るような体制を整えている。また、年2回行われる交流会の準備のために集まる機会は、利用者・家族・管理者が打ち解けた意見交換を行う場となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に連絡会議を行い、各事業所の代表者が問題点や近況報告を話し合っている。	職員会議で、ケア内容や日常業務について、意見を出し合える関係が築かれている。また、基本的に利用者と職員の馴染みの関係を築くことを優先し、異動は極力行わない方針であり、職員個々の意見を取り入れた勤務体制がとられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期であるが昇給を行っている、しかしながら十分とは言えず、今後は福利厚生の実践や人事考課に取り組んでいきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる研修には積極的に職員を参加させている。また、内部でのビデオ研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の協議会が主催する研修等に積極的に参加している。また、グループワーク等を通じて、同業者との交流を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人の要望をしっかりと傾聴することが重要と考え、実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者はもとより、家族の要望もしっかりと傾聴することがアセスメントの第一歩と考え、実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のニーズを把握するよう努め、あらゆる資源の活用を視野に入れて、入居対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの出来る事を把握し、楽しみながら、職員と共に手作業やレクリエーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や場合によっては電話のやりとり等で家族と意思疎通を図っており、出来る限り、家族の要望に応えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容所や病院への付き添い介助等、出来る限り、本人の希望に沿うようにしている。	馴染みの人や場所を大切にし、親戚・友人・知人の来訪や電話の取り次ぎ等を支援している。週3回、ボランティア団体の支援を利用して、自宅で数時間過ごす利用者もいる等、多様な支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や嗜好、趣味を把握するように努めている。孤立やトラブルを避けるために、食事の席を変更する等、臨機応変に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際にはサマリー等で退居先に情報提供している。また、退居してからも、本人の容体の確認等のやりとりを家族と行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的カンファレンスを行って意見交換し、利用者がより快適に暮らせるよう定期的に検討している。	ホームでは声掛けを大切にしており、こまめに名前呼びかけて、寂しい思いをさせないようにする事で、利用者の思いや意向を引き出すように努めている。また、意思疎通の困難な利用者にも声掛けを絶やさず、表情の変化を読み取り、意向を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居担当者はアセスメントを十分に行い、予備知識として職員に周知している。また、入居後も定期的カンファレンスを行い、評価を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	口頭や記載による申し送りにより、職員間で利用者の心身の状態の変化に注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行って職員間で意見交換をし、より良いケアの方向性を模索している。	利用者・家族・関係機関から得た情報を居室担当者がまとめ、カンファレンスで問題提起し、全職員の話し合いの下で介護計画を作成している。また、介護計画はモニタリングを行った上で4ヶ月に1回見直し、利用者の現状を反映させるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に職員間でカンファレンスを行い、利用者一人ひとりのケアの見直しをしており、介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアを活用して、外出の機会を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源とは言えないが、地域住民によるボランティア組織による夏祭りの手伝いや周辺の環境整備等を通じ、利用者の生活を支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院に限らず、本人がかかりつけの病院を受診出来るように支援している。また、受診介助も行っている。	利用者・家族が希望する医院や眼科の受診を支援しており、基本的に職員が受診介助を行っている。また、認知症専門医への受診も支援し、医療連携体制をとって看護師を配置しており、利用者の状態変化にも対応できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	記載や口頭による申し送りにより、職員間で情報の共有に努めている。また、適時、看護師から支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院等をした場合には、日々の健康状態等を出来る限り情報提供している。また、適時お見舞いに行き、容体の確認等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時と同時に重度化の指針を説明し、書面にて合意をいただいている。医療の依存度が増してきた場合等は、その都度家族と話し合いを行っている。	重度化や終末期の対応について、医療の依存度が高まると、条件の整った機関への移動支援をホームの方針としており、入居時に利用者・家族に説明している。また、利用者・家族と話し合い、納得を得ながら、医療管理が比較的少なく、自然経過での看取り介護を実践した経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行われるAED及び心肺蘇生の研修には、積極的に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民が自主消防隊を結成しており、定期的に夜間を想定した消防訓練を行っている。	年2回、利用者と一緒に避難訓練を行っており、その内1回は、地域住民による自主消防隊の協力を得て実施している。消火器等は定期的に点検がなされ、玄関以外の避難路も各ユニット毎に確保されている他、毛布・反射式ストーブ等を用意し、飲料水は隣接するお寺の井戸水を利用できるようになっている。	緊急時にすぐに提供出来るような非常食や飲料水等を備蓄することにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症のレベルに関わらず、本人の尊厳を大切に声掛けを行っている。	利用者の尊厳を守り、笑顔を絶やさず、心が通い合うようにという理念を意識しながら、日々のケアに努めている。また、何気ない時に利用者の名前を呼んでコミュニケーションを図ったり、声掛けについては職員全体のテーマとして話し合い、取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、自分で意思表示ができない利用者についても、日々の表情や行動を観察することで、喜怒哀楽を読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に柔軟に対応したいと考えるが、利用者の重度化に伴い、日課に沿った対応になりがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には気を配っており、特に口の周りや整髪に気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの有する能力に応じて、食事に限らず、リネン等の作業を行ってらっている。	利用者の希望や好みに配慮し、菜園の作物等を使って職員が献立を作成しており、利用者は出来る範囲で下ごしらえや調理、後片付けを職員と一緒にしている。また、職員は食事介助やサポートをしながら一緒に食事をとり、会話しながら食事時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し、適時、主治医に上申し、高カロリー栄養食等を捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内ケアを確実にしている。必要に応じて、往診時に歯科医から助言を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限り自立支援を促しつつ、トイレ誘導等を行っている。また、定期的に評価を行っている。	利用者毎の排泄記録から個々の排泄パターンを把握し、事前誘導を心掛け、自立に向けた支援を行っている。失敗時にはさりげなく速やかに対応しており、日中・夜間のオムツの対応が適切かどうか、確認しながら見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限りメニューをつくる際には、バランスのよい献立となるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回、定期であり、本人の健康状態に応じた入浴の仕方で行っている。	週2回の入浴を提供しており、普通浴は利用者2名に職員1名が介助している他、リフト浴も設置され、車椅子の利用者もスムーズに入浴出来ている。職員は、危険や負担感がなく、安全に入浴を楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの状態に合わせて、日中の臥床、離床時間を決めており、日中の疲労感に配慮しつつ、夜間の安眠を図れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの内服薬の情報について、病歴と共に個人記録に記載しており、一目で分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアカンファレンスや日々の気づきをノートに記載し、職員間で利用者一人ひとりの状態を把握しており、日々のケアに役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にその季節に応じたドライブ等の外出の機会を設けている。また、家族の参加も募っている。	桜や松の林に囲まれたホーム周辺は、散歩がてらにワラビ・たらの芽・きのこ取りをすることができ、利用者の楽しみとなっている。季節を感じられるようなドライブの機会を設け、外食も楽しんでいる他、花見・さくらんぼ狩り・紅葉狩り等、多彩な行事に取り組んでいる。また、利用者の体調を配慮しながら、リフト付き車両を使用し、無理のない支援を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの有する能力に応じて、柔軟に対応している。自己管理される場合には、紛失や盗難防止の観点から、管理者が定期的に所在確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の支援や手紙の代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には出来る限り馴染みの物を持ちこんでいただいている。また、廊下等の動線上には、障害となる物を置かないようにしている。	開放感のあるホールには、曲線を活かした使いやすい食卓や椅子が置かれ、利用者は切り絵の作成に取り組む等、思い思いに過ごしている。ホーム周辺は緑に囲まれ、窓からは四季折々の景色が楽しめる他、ホールには季節の花を飾ったり、玄関前の菜園にはナス・キュウリ・トマトが育ち、自然の豊かさを満喫出来る空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に利用者がテレビ観賞等をするスペースがあり、そこで各々が寛いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を考慮しつつ、出来る限り本人の馴染みの物を持ち込んでいただけるようにしている。	使い慣れた物を持ってきてもらえるように働きかけ、愛用のラジオや時計を置いたり、鉢物を育てる等、自分らしい居室づくりに取り組んでいる。また、持ち込みが少ない場合には、作品や思い出の写真を飾り、その人らしく落ち着けるような居室となるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上には障害となる物を置かないようにしている。		